

令和6年度 鈴鹿高専

青峰寮 広報誌 『青峰』



表紙デザイン 船越咲希

校長挨拶

「校長挨拶」

校長 藤本慎司



去年の4月から本校の校長として大阪から来ています。日頃、学生さんたちと直接接する機会がほとんどないので、藤本のことはあまり知らないと思います。私は学生寮に住んだ経験はなく、大学生の頃は兵庫県の神戸から大阪府の吹田まで1時間半ほどかけて電車通学していました。大学院の2年目からは大学から電車と徒歩で30分弱のところ引っ越して一人暮らしを始めています。まわりの住民も皆一人暮らしでしたが、大部分は社会人だったようで、住民同士の交流は全くなく、当時は毎日大学に遅くまでいましたので夜になったら寝に帰るだけの場所でした。とはいえ、自分で買い物に行ったり簡単な調理をしたりして初めての一人暮らしを楽しみました。学生寮の場合は、いろいろ約束事があるとお互いに気を使いながらですが、同世代の仲間ばかりですから、皆さん楽しく過ごしているのだらうと思います。本校の学生寮では大部分の方々は15歳からの一人暮らしですから最初は不安でしょう。私は特に不安や心配は感じなかったのですが、一人暮らしを初めて1月後くらいになんとなく体調が悪く、医師に診てもらったところ、環境が大きく変化したストレスが原因だろうと言われました。しばらくすると、いつの間にか治って忘れてしまいました。ところで、週末は実家に帰ることが多かったですが、ときには地図を片手に近所を歩いたりして今住んでいるところがどのようなところか、探検して回りました。地図に小さくしか載っていない神社や寺も由来を詳しく読むと、その土地の歴史が分かってきます。地図にも載っていない古い道標や石碑を発見すると何か得した気分になったことを覚えています。皆さんも、縁あって鈴鹿市に来たのですから、歩いてみることをおすすめします。白子駅の周辺は江戸時代に紀州藩(今の和歌山県で徳川御三家の一つですね)が飛び地として治めた地

域で、様々な歴史の痕跡を見つけることができます。白子は古代からの港で、江戸時代には大型船が入港する日本各地を結ぶ物流の拠点でした。伊勢商人は、大坂商人、近江商人とならぶ日本三大商人だそうで、白子を拠点の一つとして手広く商いました。伊勢商人の手堅さはWikipediaによると「近江泥棒、伊勢乞食と言われ、近江商人はがめつく、伊勢商人は儉約が過ぎて、まるで乞食のよう」なのだそうです。大坂商人も「ケチであくどい」などと悪口を言われますので、私には違いがよくわかりませんが。白子の歴史でもう一つ忘れてはいけないことで、皆さん、大黒屋光太夫はご存じでしょうか。光太夫は江戸時代に白子を拠点とした大型船の船頭で1782年に白子から江戸に向かう途上で暴風に遭ってロシアに漂着しました。数々の苦難を経て、サンクトペテルブルクにてロシア皇帝に謁見した後に帰国を許され、漂流から10年後に帰国しています。その後、白子に戻ることはほとんどなかったようですが、江戸にてロシアの事情を知る重要人物として過ごしました。写真は白子港にある大黒屋光太夫の記念碑で作家の井上靖が説明文を書いています。私は大黒屋光太夫のことは多少知っていましたが、去年5月に初めて白子港を散歩したときに、ここが光太夫ゆかりの地と知りました。

さあ、皆さんも寮生活の合間に、身近の自然、歴史、地理、あるいは産業などを自分の足で歩いて確かめてください。

(写真キャプション) 白子港緑地にある大黒屋光太夫モニュメント「刻の軌跡」と詩碑



寮務主事補 広報担当 挨拶

「ゆとりの心」

教養教育科 准教授 藤野月子

皆さん、こんにちは、寮務主事補の藤野月子です。今年度は私が一筆書かせて頂きます、宜しくお願ひします！

寮生の皆さんの毎日の生活は、私が見ている限り、充実している人が多いようで、そこは安心しています。どうせ同じ時間を過ごすなら楽しく過ごす！が私のモットーです。なので、今年度の高専祭の中夜祭でもお誘ひを頂いたので、久々にいっちょ歌うか！と校歌に参加させてもらいました。やはり予想通りとても楽しかったです。我々、教職員バンドが皆さんの高専生活の思い出の1ページにささやかでも貢献出来たら嬉しく思います。

ご存知のように私は歴史の教員なので、歴史的な有名人の教訓などを読むことも好きです。2年生のデザイン基礎でも少しでも皆さんの人生の役に立つなら、とそうした格言などを紹介しています。最近、用事がある名古屋まで行くことがあったので、そのついでにジュンク堂に寄り、全く購入する気もなかったのですが、ふと目にとまった『菜根譚』という本を手にとりました。この書物は中国の明の時代に編纂されたもので、中国で広く信仰されている仏教・儒教・道教からためになるエッセンスが集約されています。何気なく開いてみて、意外にも、おお！これは良い！と感じたので買うことにしました。既に見知っているはずのものでも、時間や立場が異なってくると新鮮に感じる経験は皆さんもあると思います。その中に、こういう言葉がありました。「有余不尽の意思を留む」これは「ゆとりの心が怒りと憎しみを消す」というような意味です。ゆったりとしたゆとりの心を持って生活すると、どんな意地悪をされても、相手を憎まず、許してやる気持ちが生まれる、ゆとりの心がないと、怒りが爆発する、怒り狂えば、自分がつぶれる。すぐにカ〜っとなりやすい私に最適なアドバイスです。確かに若い頃に比べれば、私もまあそれなりに色々と経験を積み、そんなこともあるよな、とだいが受け流せるようになってはきました。でも、まだまだ未熟で、特に自分一人でやれることはそこまで悩みませんが、特に他人があって仕事をしなければいけないときなど、しょっちゅう、なぜ？どうして？という気持ちを抱きます…それは当たり前といえば当たり前です、他人は自分が思う通りになんか動いてはくれません。そんなときにこそこの言葉はとても参考になると思います。

寮生活でもそうではないでしょうか？何しろ集団生活ですから、他人が自分の思う通りに動いてくれないことなんか日常茶飯事です。しかし、そうした中であって、寮役のメンバーは寮生の皆さんが生活しやすいように動いてくれるし、それを寮の事務の方々や船越先生をはじめとする寮務主事や主事補の先生方がサポートしてくれています。自分一人が好き勝手するとき、そこに他人の都合を考える、こんなことをしては迷惑が掛かるのではないかと相手の立場で考えるゆとりの心はありますか？

新任 寮務主事補 挨拶

「寮生活について」

機械工学科 教授 民秋実

寮生の皆さんこんにちは。今年度から新たに寮務主事補を担当している機械工学科の民秋（たみあき）です。これまで学生主事補、教務主事補の経験はありますが、寮務主事補は初めてです。鈴鹿高専に来てそろそろ30年が経ち、教え子の子供達が高専に入学してくる年代となりましたが、まだまだ経験していないことがあるなぁと感じる今日この頃です。

私自身は寮生活の経験はありませんが、学生時代、大学の近くに下宿をしていました。同じ大学に通う学生と一緒に8部屋の4畳半一間の2階建てアパートで暮らしていました。風呂は無く共同のシャワー室と炊事場、外に2つの和式トイレといった環境でした。大学まで歩いて5分、正門を入れてから学食までの距離の方が遠いという近さでしたので、朝起きて、顔を洗って着替えたら、大学の食堂へ行って朝食を食べ、そのまま1日を大学で過ごし、夕食も学食で食べて、下宿には寝に帰るだけで、他の下宿生との交流はほとんどありませんでした。4月に新入生が隣に引っ越してきて、友達数人と一緒に夜遅くまで楽しそうにしていたときがあって、朝、「昨日は遅くまでうるさくしてすみませんでした。」と言って瓶ビールを1本持ってきてくれたくらいかな（笑）。大学だと学部もいろいろ、年齢もいろいろでした。タメ口で話をしていたら年上だったりするので、お互いに敬語を使って話をすることが多く、最初はちょっと距離感があったなとか、懐かしい思い出です。

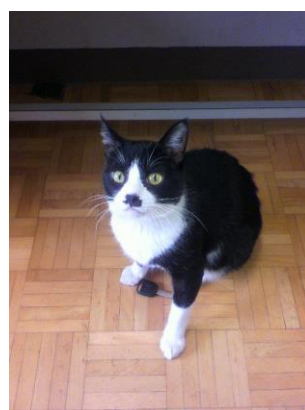
皆さんの今の寮生活を見せてもらうと、部屋にはクーラーがあるし、談話室には電子レンジがあるし、風呂には広い浴槽があるしと、私の下宿生活と比べるとうらやましい環境だと思います。皆さんの家には生まれたときから、エアコンも電子レンジもお風呂もあつたらうから今の環境も「当たり前」と感じていて、もしエアコンや電子レンジが故障して1日も使えなくなったら、（不便だ。とても住めない。）ってことになるのかなとも思います。皆さんの周りにはいろいろな「当たり前」があって、でもそれらは自然にあるものではなく、多くの人のおかげであるものだとことを知っておいてもらいたいと思います。皆さんが快適な寮生活を過ごせるのは、寮母さんや寮事務の方々が気を配ってくださっているおかげ。そして寮生一人一人の努力のおかげであることを意識してもらいたいと思います。点呼欠席や整理整頓不良が続いても自分が退寮になるだけとは考えず、自分の行動は周りの寮生にも大きな影響を及ぼし、自分だけの問題では無いことを知っておいてください。

数年後には社会に出て、いろいろな人と一緒に仕事をするようになります。寮生活において、自分のやりたいこと、やりたくないこと、相手にやってほしいこと、やってほしくないこと。それらをバランスよく調整できる力を身につけておけば、仕事でも役立ちます。みんなが楽しい寮生活を過ごせるように協力していきましょう。

「寮務主事補担当に際してのご挨拶」

生物応用化学科 教授 高倉克人

今年度から寮務主事補の仕事を抑せつかりました、生物応用化学科の高倉です。学寮関係の校務に就くのは令和 30 年度に人事交流で他の高専に異動していたとき以来であり、本校の教員としては初めてのことになります。寮生のみなさんや寮関係の教職員の方々には迷惑をおかけするかもしれませんが、何卒よろしくお願い申し上げます。一方で、これまで本校の学寮との関わりが無かったかといえばそういうわけでもありません。例えば、以前は寮監を担当するとき寮内で宿直していましたが、そのときには寮監室を“コンコンダッシュ”する人がいたので、深夜に寮監室の隣にある週番室でハリコミをして、ノックしに来た人を追いかけたこと（逃げられましたが）など、今となっては懐かしい思い出です。他には、4 寮に野良猫（右図）が入ってきたので対応して欲しいという依頼がなぜか私に来たこともありました（犬が入ってくるので何とかしてほしいと依頼してきたのは図書館だったとおもいます）。幸いなことに当時から猫のいる暮らしがデフォルトだったので、その猫も保護して天寿を全うするまで面倒をみることができました。今も自宅に猫が 2 匹いるのですが、そろそろ 3 匹目を確保したいと思っていますところ。学寮の付近で子猫を見かけましたらぜひお知らせください。一時的に学寮以外の場所で保護していただけたらなおありがたいです。また、私は鈴鹿高専の西門を出たところにある教職員宿舎に住んでいます。おそらく鈴鹿高専から最も近い所で生活している教職員だと思われます。トラブルを生じることなく学寮生活を送っていただくことが一番ではありますが、万が一危急の事態が生じましたら遠慮なくチームズのチャットなどから連絡していただきたいと思います。



今年度の寮務主事補としては主に 2 寮を担当しております。冒頭で、以前他高専で学寮関係の校務を担当したことがあると述べましたが、一番実態を把握できる寮生が主に 5 年生であることもあり、現在本校の学寮に入っている学生さんたちは比較的規則正しく寮生活を送っておられるように感じています。ただ、コロナ禍以降変化のあった寮生活のシステムへの対応が遅れていると面もあるように感じています。そういったことに留意しつつ、寮務主事補として寮生の皆さんが充実した生活を送ることができる一助となれますよう努めていきたいと思っています。

新任 教員 挨拶

「寮生活のメリット」

機械工学科 講師 長谷川賢二

寮生の皆さん、こんにちは。今年度から機械工学科に着任した長谷川賢二と申します。機械工学科以外の方ははじめましての方が多いたと思います。私は主にプログラミング系の授業を担当しています。実は専門は宇宙物理学、という変わり種です。授業をしていると宇宙に興味があるという学生もよく見かけるので、宇宙の話が聞きたい！などの希望があればお気軽に居室にお越しく下さい。さて今回、寮についての原稿を書くにあたり、何について書こうか迷いましたが、私の考える寮生活のメリットをまとめてみようと思います。私が親元を離れてはじめて一人暮らしを始めたのは18歳で大学に入学した時です。はじめての炊事洗濯などをこなしながら、難易度が跳ね上がった講義についていくのに大変苦労した記憶があります。高専寮生はこれらを中学卒業したての15歳からやっていると事実だけで「えらい！」と褒めてあげたいくらいです。ほとんどの場合、社会にできれば一人で自立した生活を行うことになりませんが、仕事に慣れながら身の回りのことをひとりでこなすとなると大変苦労するはずですが、したがって、早い段階から自立した生活の訓練ができるのは寮生活のメリット一つだと思います。

ここで、大学寮と高専寮との比較してみます。大学、高専両方の寮に共通するメリットとしては、寮生活を通じて学生同士と一緒に過ごす時間が長いため、学生同士の仲が深まりやすい、という点があると思います。もちろん逆パターンもありますが、これもお互いの事をよく知ることができた結果であり、長い目で見れば決して悪い事ではないと思います。また、夜でも寮で学生同士相談しながら予習復習することで学習効率を高めることもできます。次に、それぞれの寮の相違点について。大学寮は基本的に寝食の場を提供することが目的であり、教育的な側面をほとんど持ちません。そのため、寮生の行動は各自が自己責任で行い、門限や清掃担当などありません。それに対して高専寮では規則もしっかりしており、寝食の場を提供するだけでなく、規則に従って集団生活を行う能力を育むことも目的としています。業務終了報告も社会にできれば必ず行うもので、これらを早い段階から習慣化できるのも高専寮生活のメリットだと思います。

寮生活している間は規則や集団生活が多少窮屈で面倒に感じることもあるでしょう。しかし、上記のように寮生活で培うことができるスキルは、社会にでてから必須となります。就職前にこれらを習得しておくことは大きなアドバンテージとなり、就職後にすぐに仕事に集中できるようになります。これからは寮生活で身につけられることをしっかり意識して寮生活を送ってください。

「エンジニア教育としての学生寮について」

機械工学科 講師 松枝剛広

2024年4月に着任した機械工学科の松枝剛広です。着任から半年以上が経ち、講義や寮監任務等で私の顔を見たことがある寮生も幾許か居るのではないかと思います。さて、高専で運営されている寮の形態は教育寮であり、下宿に近い厚生寮とは異なっています。特に学年によって入居する寮および部屋編成が異なる点はイギリスのパブリック・スクールの寄宿舎とよく似ています。パブリック・スクールの特色として「社会的および道徳的に必要とされる習慣(協調性や社会常識等)を身に着けること」に加え、「上級生が下級生に対して責任を持ち、必要ならば指導・指揮すること」が一般的に挙げられます⁽¹⁾。この場では後者に絞って話をしようと思います。上級生が下級生に対して責任を持って指導・指揮するためには、上級生にはリーダーシップが下級生にはフォロワーシップが求められます。これは、進級するにつれ求められる能力が変わっていくことを意味し、入学から卒業までに二つの資質が鍛えられていきます。それでは、これをエンジニアとしてのキャリアに置き換えてみましょう。多くのエンジニアのキャリアは現場での作業からスタートします。その後、現場での作業管理に移り、やがてプロジェクトや組織の管理・運営へと変わっていくというのが一般的です。その時々において、状況と求められる役割を正しく認識できなければ、リーダーシップもフォロワーシップも発揮できません。この認識能力を鍛えるためには学生寮での生活はうってつけです。そのためには、寮生間で互いにコミュニケーションを取り、お互いが何を求めているのかの十分な認識のすり合わせを行い、寮生が寮運営の主体(勿論、野放図な行いをしてよいという意味ではない)であることを自覚し行動する必要があります。また、P. F. ドラッカーは他者の評価に晒されながら課題を認識し、責任を持って取り組み、それを乗り越え成果を出すことで人は成長すると述べています⁽²⁾。この評価は貴方が寮という集団に対してどのような貢献をしたかで変わってくるでしょう。そして、その貢献を評価するのは教員だけではありません、寮内運営の主体である寮生達もです。寮という集団生活で発生する課題を解決していくことは、皆さんにとって未来を見据え成長する得難い機会となるでしょう。寮生の皆さんが寮生活を修練の場と認識し、成長の糧にしてくれることを切に願っています。

(1) 新井潤美, パブリック・スクール-イギリス紳士・淑女のつくられかた, 岩波書店, 2016

(2) 上田惇生, 佐藤等, 実践するドラッカー[思考編], ダイヤモンド社, 2010

「寮務の思い出」

電子情報工学科 講師 遠藤健太

はじめまして、遠藤健太と申します。今年の4月から鈴鹿高専に異動してきました。授業では、1年生全体と5年生の卒業研究を担当しております。皆様のお力になれるように頑張っていきますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

さて、鈴鹿高専での勤務は1年目で寮務は担当していませんが、前勤務先では寮務を1年間担当しておりました。高専が変わると寮の文化も異なると思います。このようなお話を聞く機会はほとんどないと思いますので、前勤務先での1年間の寮務の経験や感想を述べることで新任の挨拶とさせていただきたいと思います。

前勤務先で寮務を担当して感じたことは、寮生と寮務の先生方の仲がとても良く、みんな笑顔で楽しそうに過ごしているということです。初めての宿直では、緊張感でいっぱいだった私の元に学生が来てくれて、寮事務で数時間お話しをしてくれました。私の経歴や、お互いの趣味のお話し、それから学校のお話しなど、いろいろなお話をしました。なんて学生と教員との距離が近いんだと強く感じたことを覚えています。前勤務先では、新任は2人体制に日に宿直に当たることが多く、いろいろな先生に面倒を見てもらいました。「学生がとてもフレンドリーに接してくれる反面、先生の機微もよく見ているので気をつけなさい」とベテランの先生にご指導をもらったことも強く印象に残っております。私は寮監としての立場で寮務にあたっていましたので、日々の学生寮の日記の全てに目を通していました。日記に書いてくれることは、学生生活のほんの一側面にしかすぎませんが、日々に授業や、寮でのこと、プライベートの趣味の話などを知ることで、ますます学生とのコミュニケーションが取りやすくなりました。また、寮ではさまざまなイベントが開催されていて、そのいくつかにも参加させてもらいました。年に一回の大掃除イベントでは、学生と共に寮を掃除や寮の周りの草刈りをしました。とても天気の良い日で、汗ダクダクになりながら掃除したのを覚えております。さらに、コロナ明けで再開した寮祭にも参加させていただき、学生に頼まれて私も出し物をしたのは良い思い出です。その他にも、防災訓練、寮の書初めイベント、寮の清掃イベントなどに参加させてもらいました。そのおかげで和気あいあいと学生と楽しく1年を過ごすことができました。どの思い出も、私のとても大切な宝物となりました。以上が、私の前勤務先での寮務の思い出です。

鈴鹿高専の寮は、どのような特色があるのでしょうか。高専の寮は、教育寮としての側面、日々の生活の場としての側面もあると思います。皆様、私にいろいろと教えてください。青峰寮の文化に馴染んで、教員と学生の輪に入っていけるように励んで参りたいと思います。

「鈴鹿工業高等専門学校に赴任して初めての経験」

材料工学科 講師 小西宏和

2024年4月1日付で大阪大学 大学院工学研究科 マテリアル生産科学専攻から国立 鈴鹿工業高等専門学校 材料工学科の講師として着任いたしました小西宏和と申します。これまで、大阪大学ではどちらかというと教育より研究に比重を置き活動してきましたが、鈴鹿高専では、授業や実験で学生たちと会話する機会も多く、教育に可能な限り比重を置き、教育・研究を進めています。授業としては、本年度前期に機能材料（5年生）、電気化学（4年生）、材料工学実験（4年生）、創造工学（4年生）、後期に物理化学（3年生）、材料工学序論（1年生）を担当しています。私が担当している授業では、寮生が比較的成績優秀であると認識しています。寮生活したことがない私と思うには、寮生の方が自宅生よりも自立しており、自分が決めた目標に向かって、勉学、クラブ活動を頑張っているのではないかと考えています。しかしながら、なかなか周りの学生と打ち解けていない寮生もおります。そういった寮生には、私は授業や実験の時間、または休み時間に、できる限りサポートしていきたいと思っています。自己紹介となりますが、研究では、カーボンニュートラル社会の実現へ向けた新しい無機材料の創成、環境材料の創成等の関連のテーマに学生と取り組み、将来の脱炭素社会実現に向けた社会・産業活動の主軸となる材料工学分野で活躍する人材の育成に努めます。さらに授業や研究だけではなく、学生の学校生活、寮生活にも協力していきたいと思えます。

一方、赴任して初めて寮監を担当しました。その際、私は初めて寮の食堂に入り、寮生が毎日食べている寮食（検食）をいただきました。寮食はバランスよく作られており、単身赴任で鈴鹿市に滞在している私は、毎日寮食を食べられる寮生が少いうらやましいと思っています。私が寮監した際には、特に問題があることは全くなかったのですが、門限を破る学生が時々いると聞いておりますので、それに関しては防止策を検討していかなければならないと認識しています。

寮生との会話や、寮監を通じて私は、今後もずっと、寮は存続すべきだと思っています。もちろん、寮のルール、施設の老朽化等、現在の社会状況に合わせて改善する余地もあるかと思っていますが、集団生活の中でのコミュニケーション能力、規則正しい生活、大人になるに向けての自立等は、自宅生では中々身に付けられないことだと思っています。今後も、私としては、寮、あるいは寮生をサポートしていく所存でございますので何卒よろしくお願い申し上げます。

寮事務より

「学生寮が有るメリットを考えてみました」

学生課 寮務係 設楽 勝弘

初めまして。

令和6年4月より、総務課財務・調達係より異動してきました設楽 勝弘と申します。

奉職したのが昭和61年2月でしたので、相当長くこの鈴鹿高専にお世話になっているのですが、奉職したての頃は、イノベーション交流プラザが「第3青峰寮」として存在していました。第1青峰寮、第2青峰寮、第4青峰寮、寮食堂も有りましたよ。

その頃は「全寮制」だったのです。4学科（電子情報工学科はその頃有りませんでした。）×5カ年×40名＝800名の学生が4つの寮に分かれて、寮生活を送っていました。

女子学生も数名在籍していたのですが、女子学生は、旧公務員宿舎地区にあった「独身寮」を改装した女子寮にて寮生活を送っていました。それから40年が経過して、学生寮も結構様したな。というところが正直な気持ちです。

先に書いた異動元にも有りますように、財務・調達係にて主に先生方が使用する実験装置の調達業務をしていました。

装置によっては、数千万円もする装置を学校に導入するために必要な入札業務。契約締結業務を行っていました。このように、長年会計畑を歩いてきた人間にとって、学生さん並びに保護者の方々と直接、関わり合うことは無かったので、戸惑うことばかりの9ヶ月でした（令和7年1月現在）。仕事に早く慣れて皆さんのご迷惑にならないよう努めたいと思う今日この頃です。

この場をお借りして、年寄りのアドバイスのものを、書きたいと思います。

せっかく学生寮に入ったのですから、いろんな意味で寮生活を活用してください。

また、高等専門学校というところは、「就職予備校」の一面を持っていると思っています。

企業に入れば、5年差どころではない、それこそ40歳近く年の離れた方とコミュニケーションを取りながら仕事を行っていくのです。たくさんの「先輩・後輩」「上司・部下」の関係が存在しています。そこで、皆さんは青峰寮を、1、2年生は「先輩」とのコミュニケーションの取り方を学ぶ場、そして、4、5年生は後輩を指導することを学ぶ場として、活用してもらえればと思います。

また、企業では時には上司に対して意見することもあります。上司だから、年上だからといって遠慮しては先に進まないこともあります。上の者にどのように言えばいいのか？このような場面でも、普段、学生寮の中で先輩や後輩とうまくコミュニケーションを取っていれば、恐れることも無いと思います。このようなスキルも学生寮では身につく可能性があります。寮役員を行っていれば、このスキルは結構、鍛えられるでしょう。

いろいろな個性を持った寮生が、学生寮に居るのです。企業も同じことです。もっと個性

豊かな？人間が集まって仕事をしています。そういった面も含めて学生寮は企業とよく似ています。他人の個性とどのように向かい合っていくか。このようなことも色々経験できるでしょう。

通学生では体験や学習できないことです。

鈴鹿高専の青峰寮に入って良かった。社会に出た時に寮生活で体験したことが役に立ったと思えるような寮生活を過ごしてください。

各寮長挨拶

「4年間の寮生活」

1寮 前期寮長 田中 知優

1 寮前期寮長を務めさせていただきました、材料工学科4年の田中知優です。

私が入寮した頃の頃、寮生活はコロナと共にありました。マスクはもちろん必須で、仲間の部屋に行くのも禁止、寮食堂もパーティーションで区切られており、なかなか他の寮生と言葉を交わすことが難しい状況でした。

4年生になり、寮長を任せていただくことになりました。私たちの代はコロナ禍の影響があつてか入学時に8人と人数が少なく、その後次第に減り、今では寮役員を3人のみで務めるといふ異例の事態になりました。そのため、年度初めから不安でいっぱいでした。寮役員の人数が少ない分、沢山助けてくれた指導寮生の3年生の子たちには深く感謝しています。私たちが年度初めに宣言した女子寮の目標は、とにかくコロナパンデミック前の雰囲気を取り戻したい、これ1つでした。寮で一緒にご飯を作ったり、パーティーをしたり、イベントを皆で企画して皆で楽しんだり、寮生ならではの楽しみを後輩たちに今以上に実感してもらえればと思いました。

前期は、国際交流会というものを企画してみました。留学生の方々と沢山交流できるのは、寮生の特権ではないでしょうか。皆でお菓子を囲んで、留学生の母国にちなんだクイズ大会をしました。初めてのことで色々難航しましたが、好評の声を聞いて一安心したのを覚えています。

また、ここ数年消えかけていた委員会活動の復活に取り組みました。これまで、寮事務の方々や寮母さんにやって頂いていた業務を学生が担うことで、学生の自律は勿論、全学生が役割を持ち寮生コミュニティの一員であるという自覚を持ってもらうことを目的としました。その自覚が、規則を守る意識や、学年を超えたつながりを作っていくはずで。

私にとって、この4年間の寮生活には、大切な記憶が数えきれないほど沢山あります。ずっと生活を共にしてきた仲間たちは、もはや家族同然の存在です。寮で仲間たちと過ごした時間は膨大で、誕生日をお祝いしたり、毎日どうでもいい会話をしたり、テスト期間には一緒に頭を抱えながら夜中まで勉強したり、挙げだしたらきりがありません。その一瞬一瞬が、今となつては愛おしく思えます。社会人になった未来で、寮で過ごした時間は大きな糧になるでしょう。

最後に、いつも私たちの寮生活を陰で支えてくださっている寮事務の方、先生方、寮食堂の方々、ありがとうございました。

皆さんが寮で素敵な時間を過ごせることを願っています。

「振り返ってみれば、」

1寮 後期寮長 加藤るもい

今年度、1寮後期の寮長を務めさせていただきました。生物応用化学科4年の加藤るもいです。女子寮では今年度も前期・後期で寮長と副寮長を交代しており、私は前期には副寮長を務めていました。

私たち、令和3年度入学の女子寮生は例年に比べて人数が少なく、さらに入寮してから学年が変わるたびに減ってしまい、現在ではたったの4人となってしまいました。その結果、私たちの代では指導寮生や寮役が消去法のように決まってしまい、私としては釈然とせず、役に就くことができました。正直、自分が役職を頂くなんて考えておらず、更には寮長を務めるとは全く想像もしていませんでした。

役職を引き受けると寮内での様々な仕事の他、役職であることの責任も伴い、負担に感じることもありました。しかし、寮役や寮長として寮の運営に関わる立場を経験したことで、ただの寮生では得られない視点を持つことができました。今、振り返るとこれは非常に貴重な経験となりました。

その中でも特に記憶に残っているのは防災訓練です。一寮生の頃は寮役の指示に従って動くだけでしたが、指示を出す立場になってみると、寮生の訓練に対する姿勢や避難経路、情報共有の課題が見えてきました。また、実際に災害が起きた際、自分が責任のある立場として対応できるのかと不安に感じました。しかし、訓練では他の寮役や指導寮生や経験豊富な寮生が積極的に動いている姿を見て安心することができました。

また、寮生が寮生活に何らかのメリットを感じられる様に考え、行動し、その結果が反映される様子を見るのは非常にやりがいがありました。留学生交流会、寮祭、と言った寮全体のイベントの他に、コロナ禍を経て、1寮内の委員会を復活させたのは大きな変化で、寮生が学年を超えて協力して活動する機会となりました。

こうして一年を振り返ると、最初は自分に務まるのかという不安ばかりでしたが、なんだかんだと楽しんでいた部分も多く、無事に年度を終えられることに安堵しています。一年を通じて、寮内で問題が発生するたびに、寮役や指導寮生の仲間と知恵を絞り、先輩や先生方の意見を参考にしながら解決を目指したことは得難い経験でした。

最後に、共に活動した仲間や寮事務の方々、先生方のお力添えのおかげで大きな問題なく1年間を終えられたことに深く感謝いたします。

「この一年間を振り返ってみて」

2寮 寮長 堂本泰晴

二年の時に指導寮生に立候補し、五年生でも寮長を務めました堂本泰晴です。今年度の寮生活を振り返ってみて、個人的に特に記憶に残ったことをいくつか紹介しようと思います。

一つ目は、後期からA寮が改修工事に入った事です。これにより、5年生は第二青峰寮に入る事となったため、広々とした部屋で寮生活を過ごすことができました。2寮はA寮よりも部屋が広く、談話室だけでなくセミナー室と呼ばれる部屋があったため、自室では布団やWiFiなどの誘惑で勉強に集中できない人も編入学試験勉強や定期テスト勉強に集中していました。また、前期はフィンランドからの留学生も過ごしていたため、少しではありますが、コミュニケーションをとる機会があり、自分の英語能力の無さを痛感しました。来年度以降2寮は、寮内の規則を守っており希望する5年生と生活態度に問題がなかった専攻科生のみ過ごすことが出来ます。もし、広々とした部屋があり、自習室や個室のシャワールームがある2寮に入りたいならば、今のうちから生活態度を改めておくことをお勧めします。

二つ目は、例年行われている寮祭で、新たにデジタルゲームの種目が行われたことです。プロジェクターを用いて壁に投影することで、普段ではできない大画面でゲームをできたと思います。ゲーム大会は寮祭では初めての試みであるうえ、僕はゲームをあまりしないため、大会の準備や実行はグダグダになってしまいました。しかし、個人的には迫力のある画面でゲームを鑑賞できて楽しかったです。来年度以降、ゲーム大会を行う場合、そのゲームに詳しい人をチームに入れておく準備などがスムーズにできると思います。

今年度ももう少しではありますが、精いっぱい頑張っていこうと思います。そして、僕は専攻科に行くため、おそらく寮に残ることが出来ると思うので、来年度以降も寮生活を楽しめたら楽しもうと思います。

「寮生活」

4寮 寮長 石角篤宗

皆さん、こんにちは。

今年度、4寮の寮長を務めさせていただきました石角篤宗です。

この一年間、寮長として寮生の皆さんと共に生活し、多くの学びと貴重な経験を得ることができました。この場をお借りして、感謝の気持ちをお伝えするとともに、寮生活の魅力についてお話ししたいと思います。

まず、4寮での生活を振り返ると、寮生同士の交流があることが印象的でした。特に、合同部屋での生活は、学年や学科を超えたつながりを築く大きなきっかけとなりました。同部屋の先輩や後輩と日々の生活を共にする中で、自然とコミュニケーションが生まれ、互いに支え合う関係が築かれていきます。こうした環境は、通学生ではなかなか得られない、寮生活ならではの魅力だと感じています。

また、寮内での共有スペースの活用も、寮生活をより豊かなものにしていきます。談話室では、友人たちと料理を楽しんだり、テスト期間中に一緒に勉強したりと、さまざまな活動が行われています。一人で集中したい時は部屋で、誰かと一緒に取り組みたい時は共有スペースでと、気分や状況に応じて選択できる柔軟さが寮の大きな魅力です。

また、寮生活を通じて、友人関係だけでなく、自分自身の成長を実感する場面も多くなりました。共同生活では、他人の良い面だけでなく、時には気になる部分も目にすることがあります。しかし、それを受け入れ、互いに歩み寄る経験は、人間関係を深めるだけでなく、自分自身の器を広げる機会にもなります。このような経験は、将来にわたる大きな財産になると確信しています。

それに加え、寮での生活は、学業や部活動との両立をサポートしてくれる環境でもありません。通学時間がないことで自由な時間が増え、勉強や趣味に充てられる時間が確保できます。また、同じ目標を持つ仲間たちと共に過ごすことで、互いに励まし合いながら成長することができます。

これから寮生活を始めることを考えている方にお伝えしたいのは、寮生活は単なる生活の場ではなく、多くの学びや出会いが詰まった場所だということです。寮での経験を通じて得られるものは、きっと皆さんの人生を豊かにするでしょう。

最後になりますが、4寮の寮生全員が快適で充実した生活を送れるよう、あと少しですが全力で取り組んでまいります。皆さんと共に、さらに素晴らしい寮生活を築いていけることを楽しみにしています。

どうぞよろしくお願いたします。



**今年度の広報誌は以上になります
どうもありがとうございました！
また来年度も宜しくお願いします**